

DECSが 実現する 学生の学びの変化



宮城大学 看護学群 教授
大塚 眞理子

おおつか まりこ

<学歴>

1981年3月 千葉大学看護学部卒業
2001年3月 千葉大学大学院看護学研究所
博士後期課程修了、博士(看護学)

<主な職歴>

1981年4月 王子生協病院 看護師
1984年4月 埼玉県立衛生短期大学看護学科
助手
1990年4月 埼玉県立衛生短期大学 講師
1998年4月 埼玉県立衛生短期大学 助教授
1999年4月 埼玉県立大学保健医療福祉学部
助教授
2005年4月 埼玉県立大学保健医療福祉学部
教授
2014年10月 千葉大学大学院看護学研究所
特任教授
2016年4月 宮城大学看護学部 教授

看護学教育の特殊性

【Campus Life】の読者の皆様は、看護系大学のことをご存じだろうか。

従来、看護師や保健師、助産師の看護師等養成校は、看護専門学校が主流だった。看護系大学は、1991年には11校であったが2019年には270校と、看護師等養成校の3割強を占めるようになった。看護系大学では学問としての看護学を教授しつつ、国家試験に合格して看護師や保健師などの看護職となる教育を行っている。看護系大学では、国家試験受験資格を得るために、学生が学ぶ知識や技術は膨大である。講義や演習、病院などでの実習が多く、時間割は過密である。選択科目の自由な受講や自己学習時間の確保ができないなどの状況がある。このような中で、社会貢献できる大卒看護職をいかに世に送り出すか、効果的率的教育方法の工夫は常に課題となっている。

医療現場で求められるICTリテラシー

一方、医療現場は医療の高度化・複雑化が急速に進んでいる。医療のICT化は目覚ましく、患者情報は電子カルテで管理されるようになっていく。学生のうちからICTリテラシーを身に付けることが不可欠になっている。各大学では、入学時にパソコン等を必修としてICTリテラシー教育を始めている。

電子書籍を用いた教育の開始

本学でも、2017年度の1年生からパソコンが必修となり、1年生には全学必修でパソコンを使ったICTリテラシー教育が始まった。ところが、看護専門科目ではパソコンを使う授業がほとんどない現状であった。私担当している老年看護学は、1年後

期に老年看護学の概論、2年前期で援助論Ⅰ、3年前期で援助論Ⅱ、3年後期に実習が必修科目として配置されている。選択になるが4年前期に総合実習と通年で卒業研究を受講する学生がいる。4年間使う老年看護学の教科書は複数の出版社から出版されている中、ある一社のものは、電子教科書でも購入できた。そこで、2017年度の1年生から電子書籍(Digital Education Contents)以下、DECS)を使う教育を開始した。

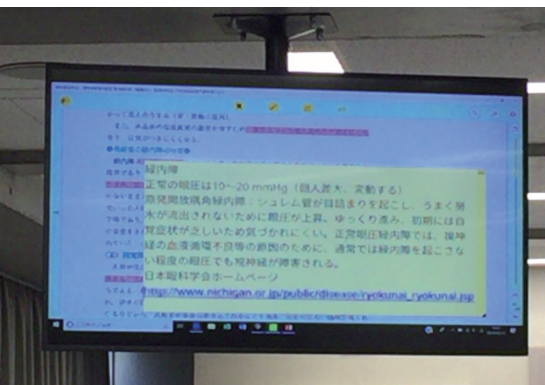
当初の混乱と学生の 反応、課題の解決と 創意工夫

初年度の使い始めは混乱であった。学生は受講する科目の教科書をまとめて購入するが、老年看護学の電子教科書は、クーポン券である。クーポン券を買って登録し、自分でインストーラダウンロードするようにインフォ

メーションした。しかし、授業の初日に電子教科書を使えるようにしてきた学生は3割ほどであった。クーポンを失くした、インストールできない、パソコンが開けないなど授業にならなかった。これらに対しては、教員だけで対処できず、生協の担当者に来てもらって協力を得た。落ち着いて全員で電子教科書を使う授業ができるようになったのは3週目であった。これに懲りて2年目からは、授業開始前に電子書籍の使い方の時間を設けたので、初回から落ち着いて授業ができるようになった。

学生からは、なんで老年看護学の授業だけパソコンや電子書籍を使うのか、紙の教科書の方が良いなどの意見もあった。電子教科書を使うことは強制ではなく紙の教科書でもよいことを伝え、電子教科書を見せながら、授業展開を工夫した。

授業では、シラバスに基づいて毎回教科書を事前に読んでくるよう意識



電子書籍のモニター投影



電子書籍を使った授業風景

づけた。また、ペーパーレスで授業を行うので、電子教科書以外に必要な資料は、事前に電子書棚とメールに配信した。学生からのレスポンスはパソコンや携帯から学内WEBシステムを活用した。

学生は、授業中に電子教科書に教員がつけるマーカーや付箋を共有してほしいと希望してきた。アンケート機能を使ったミニテストも好評であった。老年看護学の教科書に掲載されている動画は事前事後学習で視聴していた。教員が作成した動画教材を電子書棚への配信ができたし、YouTubeなどに公開されている動画や資料もURLを付箋に貼って教材にすることも可能であった。これらの動画教材を用いてグループワークを行い、各グループの成果を付箋に記入して共有することも学生の相互学習を促進した。

学生は各自で使い方を工夫するようになった。携帯で電子教科書を開いてみながら、パソコンでノートをとっている学生や電子書籍の付箋がノートになっている学生など様々である。

● **「電子教科書を使ってよかった点」**
老年看護学の授業では教科書がかさばらない

学習のログレポートをみると、授業の前後で使用していることが分かった。別の科目の実習前に老年看護学の電子教科書を見ている学生がおり、動画を通学時間に視聴していることも分かり、活用されていることを実感している。

電子教科書や電子書棚に不都合がある、その都度生協の担当者へ改善をお願いしている。教科書のページ表示やスクロールの方法などは2年目には改善された。教室のネット環境の改善やコンセントの増設も大学の事務局が対応してくれた。使いながら様々な問題に直面し、改善しながら進んでいる。

2年目の1年生には、授業を開始する前に、時間をとって電子教科書の使い方について、先輩からのガイダンスをしてもらった。以下がその内容である。

- ワードの検索ができる
- 先生との付箋やラインを共有できた
- 動画をすぐ見られる
- アプリを入れると、バスの中でも見られる
- 教科書をあまり持っていない実習で、電子書籍だとすぐ確認できる

● **「困った点」**

- 先生のレジュメと教科書が一度に開けない↓2年目に改善
- 工夫…レジュメを予め印刷し、授業を受けるようにした
- ネットワークトラブル(回線が混む)
- 工夫…定期的に見る↓2年目にネット環境を改善
- タイピングに慣れていない人は、メモに時間が掛かる
- 工夫…教科書としてだけ電子書籍を使い、メモはノートで取る

● **「電子書籍を使っている感想」**

※最初は大変だったけど、慣れたら悪くない(携帯は忘れない)教科書を忘れない

※生協で扱っていないけども、他科目も電子書籍があれば教材を携帯端末で見ることができると嬉しい

※長い目で見れば、看護師になった際、かさばる教材を運ぶ手間がなくなり、検索機能で知りたい情報がすぐ見つかる

Z世代の看護学生に現れた学びの多様性と教育方法の工夫

2年目の1年生は、電子教科書を使った授業が大変スムーズであった。年々、電子教科書の受け入れは良いように思う。

DECSの使用は3年目となった。初年度の1年生は3年生となり、使い方が多様になっている。電子教科書を読んだり動画を見たりは、パソコンよりも携帯を使う方が多いようである。病院実習ではiPadで電子教科書や授業で配信した資料を開き、実習に活用している。

1995年以降に生まれた「Z世代」と呼ばれる現在の大学生たちは、生まれた時からインターネットに囲まれて育っている。インターネットに自由にアクセスし、SNSで発信することに抵抗がないようである。確かに、動画を好み、マーカーや付箋、グループワークの成果を発信し共有することを好んでいるようだ。教員の方が固定観念に縛られているのかもしれない。DECSを使った授業は予想を超えた可能性がありそうである。学生とともに工夫していきたい。

※現在、電子カルテを使用している病院が多く、パソコンの操作は必要不可欠なスキル。タイピングにも慣れておいた方が良い